

《短報》

## 下関市で確認されたノコバゼムカデ

竹本理起

豊田ホタルの里ミュージアム・サポーター会員, 〒750-0441 山口県下関市豊田町大字中村 50-3

### はじめに

ノコバゼムカデ *Otostigmus scaber* Porat, 1876 はオオムカデ科に属する体長 80 mm 程度の南方性のムカデである(高桑, 1940)。これまで、西表島(大嶺ほか, 1983)や沖縄本島(大嶺, 1969)、鹿児島県(篠原・越山, 1960)、熊本県(篠原, 1991)、佐賀県(林ほか, 2021)、宮崎県(宮崎日日新聞, 2018)、福岡県(福岡県環境部自然環境課, 2018)で確認されているが、山口県からの記録はなかった。今回、県内初記録になると思われる山口県下関市吉見本町で生息を確認したので報告する。

本文に先立つにあたり、ノコバゼムカデの文献についてご教示頂いた塚本 将氏(東京都立大学)と栗原良輔氏(熊本大学)に御礼申し上げる。

ノコバゼムカデは2020年10月18日に山口県下関市吉見本町の海岸に隣接する道路の脇のゴミの中から1個体のみ採集した(図1)。青く美しい最終歩肢(曳航肢)を持つ見たことのないムカデであったため持ち帰り、Vu *et al.* (2020)を参考に第3-20背板に縦隆起線が5本以上は通っている点や触角の基部2節が密毛に覆われていない点から本種と同定した。なお、採集した個体は、数日間の飼育を行ったが、標本としては残していない。本種を見つけた海岸(響灘)には海外からのゴミが大量に流れつく為、本種はその際に流れ着いた可能性が考えられる。篠原・越山(1906)では鹿児島県枕崎海岸でツクイムカデ *Otostigmus multispinosus* Takakuwa, 1937が発見された際に、高桑博士が“流木などに付着漂流したのだろう”と考察したことを記している。



図1. 山口県下関市吉見本町で採集したノコバゼムカデ

引用文献

- 福岡県環境部自然環境課(2018) 福岡県侵略的外来種リスト 2018 (<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/attachment/39350.pdf>)
- 林 大祐・側垣共生・陣内 聡(2021) 佐賀県で初めて確認されたノコバゼムカデ. 佐賀自然史研究, **27**: 48-49.
- 宮崎日日新聞(2018) ([https://www.the-miyazaki.co.jp/kennai/\\_35706.html](https://www.the-miyazaki.co.jp/kennai/_35706.html))
- 大嶺哲雄(1969) 沖縄産のムカデ類. 沖大論叢, **9**(1): 269-298.
- 大嶺哲雄・中玉利澄男・高嶺 英恒(1982) 西表島中央部の土壌動物相, 沖縄大学紀要, **2**: 97-139.
- 篠原圭三郎・越山正三(1960) 分布上注目すべき鹿児島県産アオムカデ属の2種, 採取と飼育, **22**(5): 154.
- 高野光男(1991) 日本産多足類新産地報告, *TAKAKUWALA*, **23**: 9.
- Vu Ha T., Hung D. Nguyen, Son X. Le, Katsuyuki Eguchi, D. Nguyen, Binh T.T. Tran (2020) A review and notes on the phylogenetic relationship of the centipede genus *Otostigmus* Porat, 1876 (Chilopoda: Scolopendromorpha: Scolopendridae) from Vietnam. *Zootaxa*, **4808** (3): 401-438.